

日本にニュー・バウハウス設立を

田中辰明

街頭は希望を失った失業者、傷痍軍人、であふれていた。1918年ドイツが思わぬ敗戦をした第一次世界大戦後の首都ベルリンである。時の皇帝ヴィルヘルム2世は同年オランダに亡命し、キールで起きた水兵の反乱に端を発したドイツ革命と共にドイツ帝国は消滅した。

ヴァイマル共和国が発足したが、ヴェルサイユ条約により、多額で支払い不能な賠償金が突き付けられていた。激しいインフレも起こり、国民の心は疲弊していた。1919年に発足したヴァイマル共和国政府は国民に再び希望を抱けるように腐心した。その一つが国立の芸術学校を作り、諸外国から一流の芸術家を集めて教育を行うというものであった。首都ベルリンには、戦争を主導した軍部と将校、官僚、皇帝の近衛兵は残っていた。これに対応する労働者組織との小競り合い、テロも頻発した。

そこで芸術学校は首都ベルリンではなく、ヴァイマルに作られた。それがバウハウスであり、校長として建築家ヴァルター・グロピウスが迎えられた。¹⁾

バウハウスの教員として参加したパウル・クレー（Paul Klee、スイス）、ヴァシリー・カンディンスキー（Wassily Kandinsky、ロシア）、ライオネル・ファイニンガー（Lyonel Feininger、米国）などはこの

時代を代表する芸術家である。これに加え、芸術教育に力を入れた教員がいる。ヨハネス・イッテン (Johannes Itten、スイス)、ラスロ・モホリ＝ナギ (Laszlo Moholy-Nagy、1895-1946 ハンガリー) 等多国籍の教員がいた。

これに加えて初代校長はヴァルター・グロピウス (Walter Gropius、ドイツ)、3代目校長はルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ (Ludwig Mies van der Rohe、ドイツ) で、この2名は近代の4大建築家に名を連ねる。二代目の校長ハネネス・マイヤー (Hannes Meyer、スイス)²⁾ で、マイヤーは校長として精密な教育プログラムを作り、自らもベルナウの研修学校など素晴らしい作品を残した建築家であった。

第一次世界大戦は1914年に始まり、4年間に及んだ。ドイツ国民の間には厭戦気分が漂っていた。世界平和の希求と“インターナショナル”という事が言われるようになった。バウハウスでは沢山の女性も学び、女性が手に職を得た。³⁾ 徐々にナチスが台頭すると、「ドイツ人でも食えない人がいるのに外人教師に高賃金を支払うバウハウスは国民の敵である」として弾圧されるようになった。結果、バウハウスは1933年に解散し、14年の歴史を閉じた。グロピウス、ミース・ファン・デル・ローエは米国に亡命し、鉄とガラスの超高層建築を手掛け、それが現在世界の標準となっている。バウハウスでは多くの教員が抽象画を描き、かつこれを教えた。抽象画は描くのに想像力を必要とする。バウハウスでは学生に想像力の喚起を促せた。想像力は絵画を描くにも、小説を書くにも、企業経営にも必要である。

日本は長くTQCを全国津々浦々で行ってきた。建築現場の優秀な工事管理者も書類管理者になってしまった。TQCが行われた時代は

日本が成長を止めた 30 年と一致する。

想像力の涵養を行ったバウハウスで開発された、家具、スタンド、絨毯、壁紙、椅子どれもヒット商品となった。

さてコロナ禍は一種の戦争である。各国とも多大な財政支出を余儀なくされ、勝利した国はなかった。失業者、倒産する中小企業も増えた。第一次世界大戦後のドイツと酷似している。当時のヴァイマル共和国は世界各国から一流の芸術家を集めてバウハウスを創立した。学生も世界から留学生を集め、日本からの留学生も現地並びに帰国後も活躍をした。バウハウスは現在でも世界に大きな影響力を残している。そしてドイツはナチスによる汚点を背負うものの、現在では周辺国との関係も良く、尊敬される国として歩んでいる。我が国もコロナ戦争により多大な被害を受けたがニュー・バウハウスを設立し、世界から一流の芸術家を集めて、芸術教育を行ってはどうであろうか？もちろん韓国からも中国からもトップクラスの教員を招く、そして世界から留学生を招く。バウハウスでは優秀な芸術家が共に生活し、お互いに影響を及ぼした。互いに切磋琢磨し、共に成長した。それに学生も加わった。日本が近隣諸国からも尊敬される国になれば、防衛費を現在の GDP の 1% の枠を外し 2% にする必要もなくなる。筆者自体もドイツに留学し学ぶことも多かった。しかしいつまでも外国に留学する時代でもないであろう。日本にもドイツ人建築家ブルーノ・タウトが桂離宮や伊勢神宮、伝統の工芸品を激賞したように世界から芸術家や学生を招く魅力のある文化も文化遺産もある。また日本にも世界から注目される建築家は存在する。彼らに日本のグロピウスになってもらい「世界から愛される日本国作り」の手腕を発揮していただきたい。

(たなか たつあき お茶の水女子大学名誉教授)

参考文献

- 1) 田中辰明 「世界文化遺産アルフェルトのファーフス工場」月刊建築仕上技術 2014 年 2 月号
- 2) 田中辰明 「バウハウス 2 代目校長ハンネス・マイヤー設計によるベルリン郊外ベルナウの『同盟研修学校 (Bundesschule Bernau)』」月刊建築仕上技術 2019 年 3 月号
- 3) 田中辰明 「バウハウスと女性たち」婦人之友 2020 年 3 月号

